



周
刻
者

木
下
猶
之
助



明治三十六年九月十日印刷
明治三十六年九月十五日發行

著作兼發行者
京都御苑内博覽協會構内
京都美術協會

右代表者
熊谷直行

著作者
猪熊淺磨

画者
古谷紅麟

印刷所
京都市下京區富路錦小路元高宮町第廿番
藤澤文次郎

彫刻者
木下猶之助

氏の式飾をればいそで野河
此流の末長く世に傳へてむ

と解法書を添へてぐ摺卷と
はなりつゝあの國譜や後の世に
叔きを温ぬむ人の善き契と
なりて新しき事を知らむ上
にはまよなき便あるべしと思ふ
心をかくたむ

明治三十七年の夏

京都美術協會頭

從産勲二等大森鍾一



京都美術協會常務委員

山田得安書



のもてたや——賞めたるふるも理な
りけし美術家此資料とす
び教育家の参考とすところ
いづれをともむ然るをあらう
る品はか——さくも御物を始め
奉りてその寶と仰がる物れ
みすれば久——く餅り置り
るべきにあらず閑彼のほは再
観られざる——誠にあさう——
き柳に存むほなれ比叡の山より
もそれ名高くきにきこえたる
その式飾なればいぞ野河
此流の末長く世に傳くてむ

と解読書を添へてぐ摺巻と



故きを温ねずばいづか新き
を知らずき今此大御世の月にも
進みのきて新きを望む
につれておのづから故き事を知ら
むとせしするは存ぐもの人な
るべしきに里山町なる美術
館を聞きたる古美術品展
覧会中の舊儀十六式の席
飾と委員長のなる熊谷直子
主のいづきとあるれ人々ちの
いそみそにうて今が始めてせ
るに今やでかたはけ絶えて
なかりしあれば内外の人々







武具飾

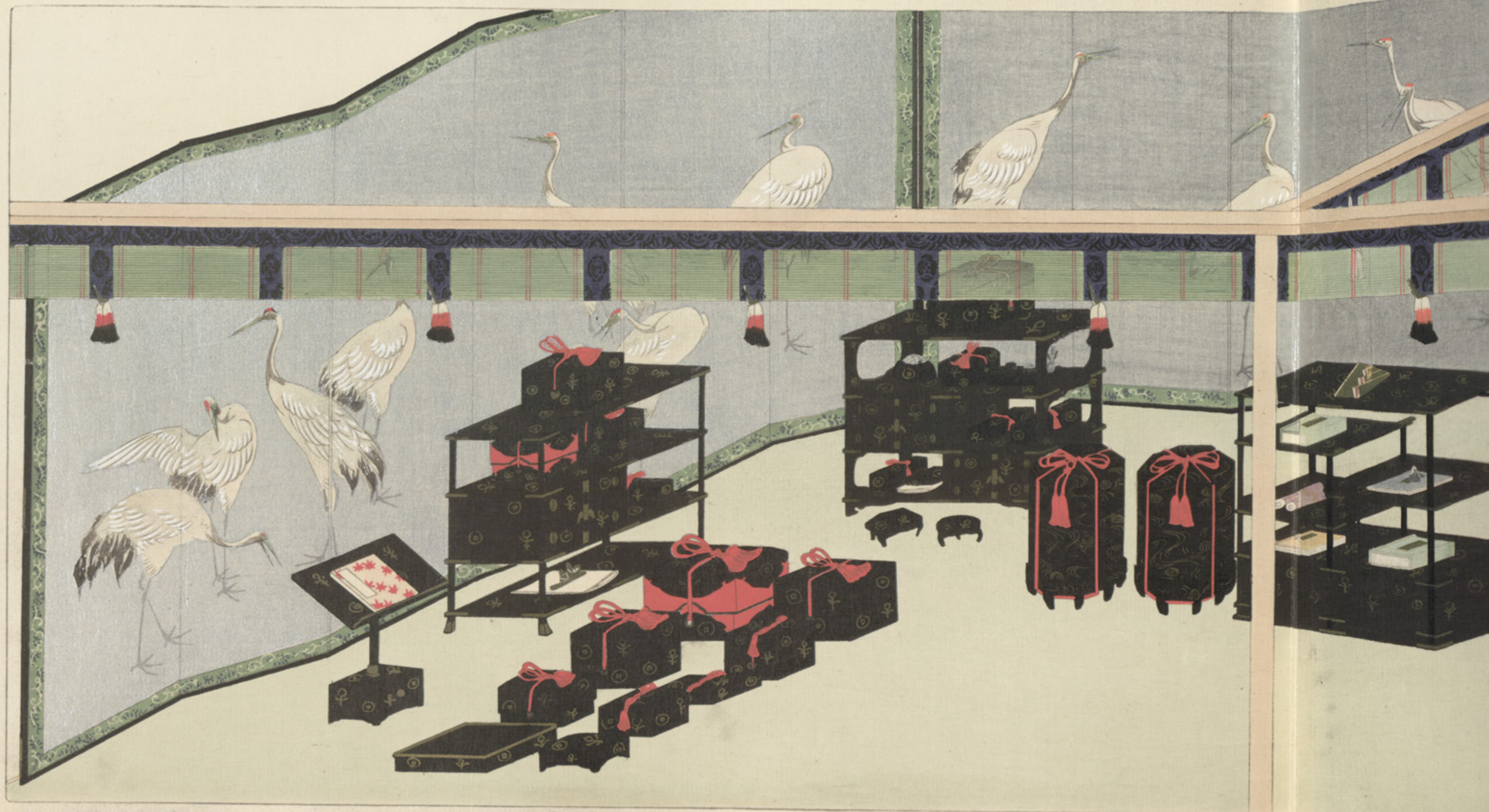


遊戯具飾



武具飾



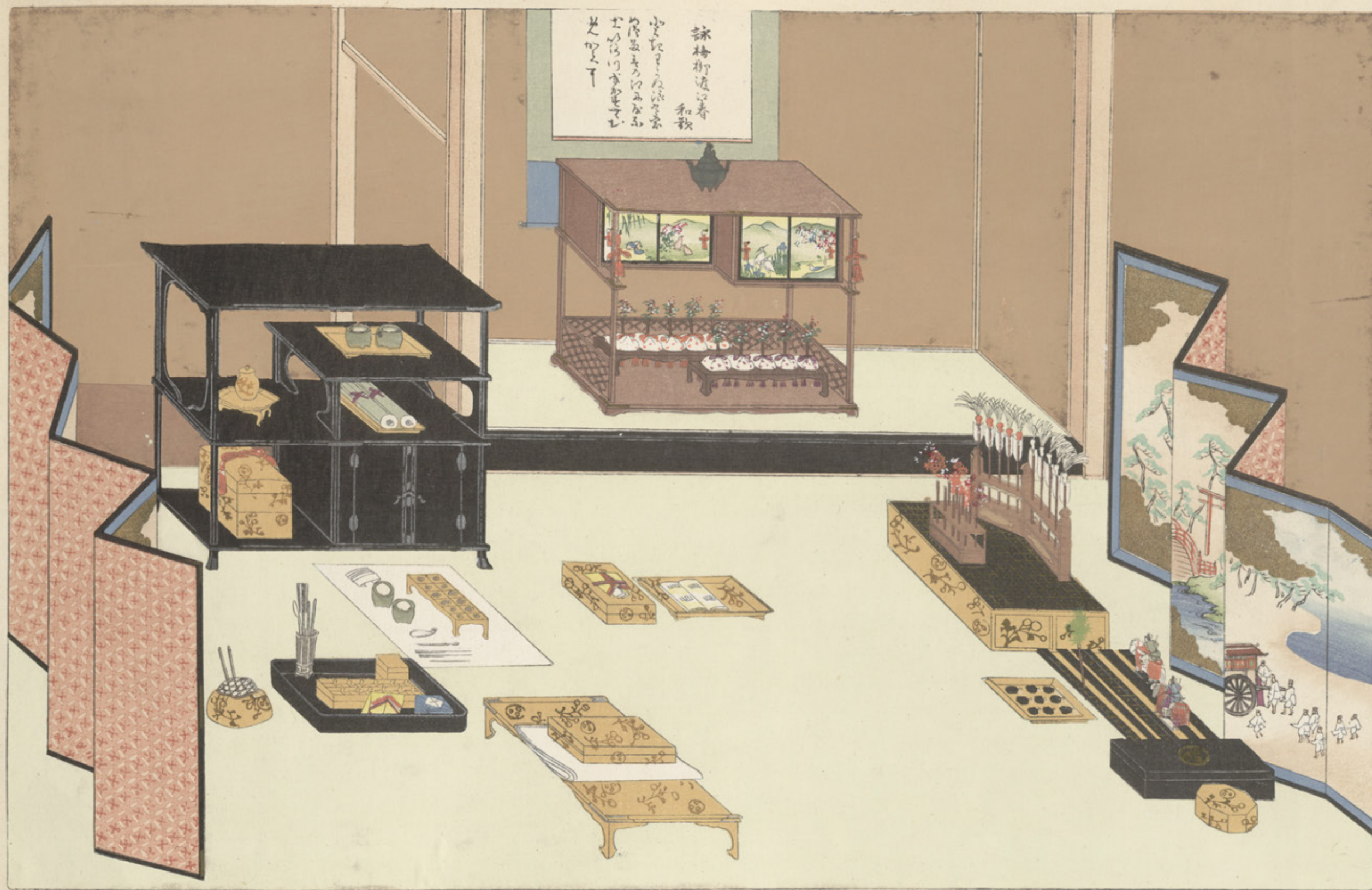




饗應席飾



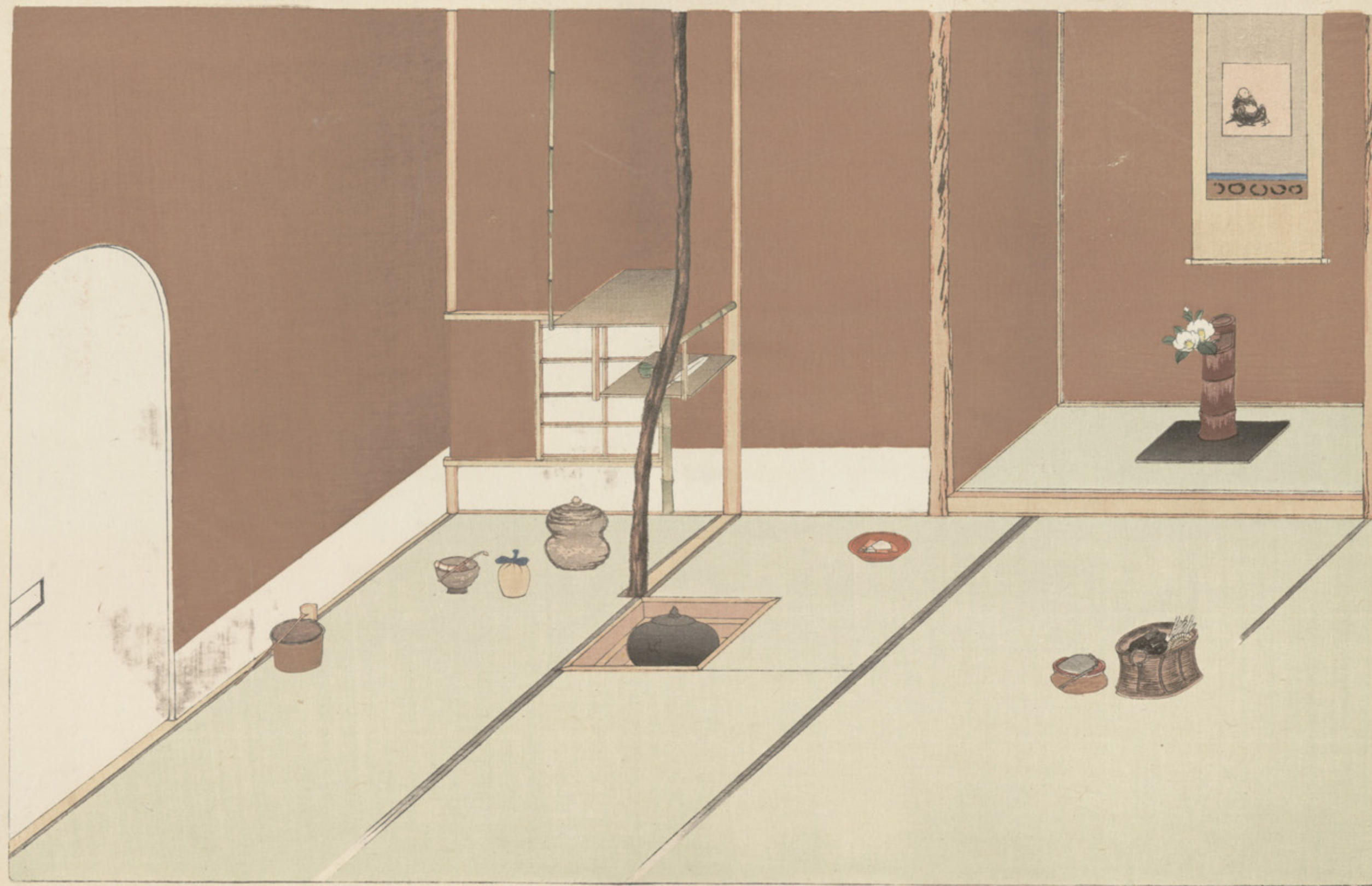
閑香席飾



饗應席飾









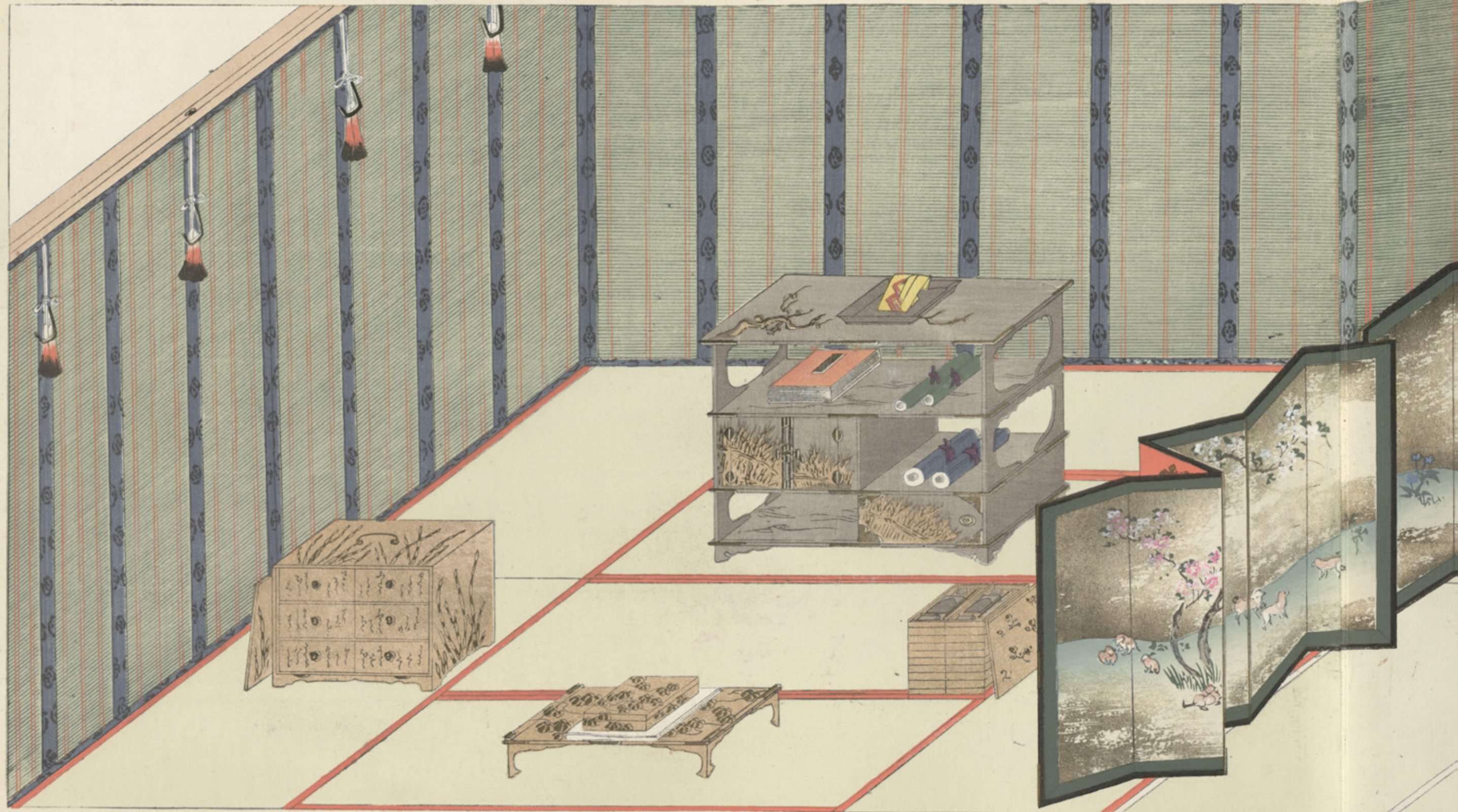
煎茶席飾









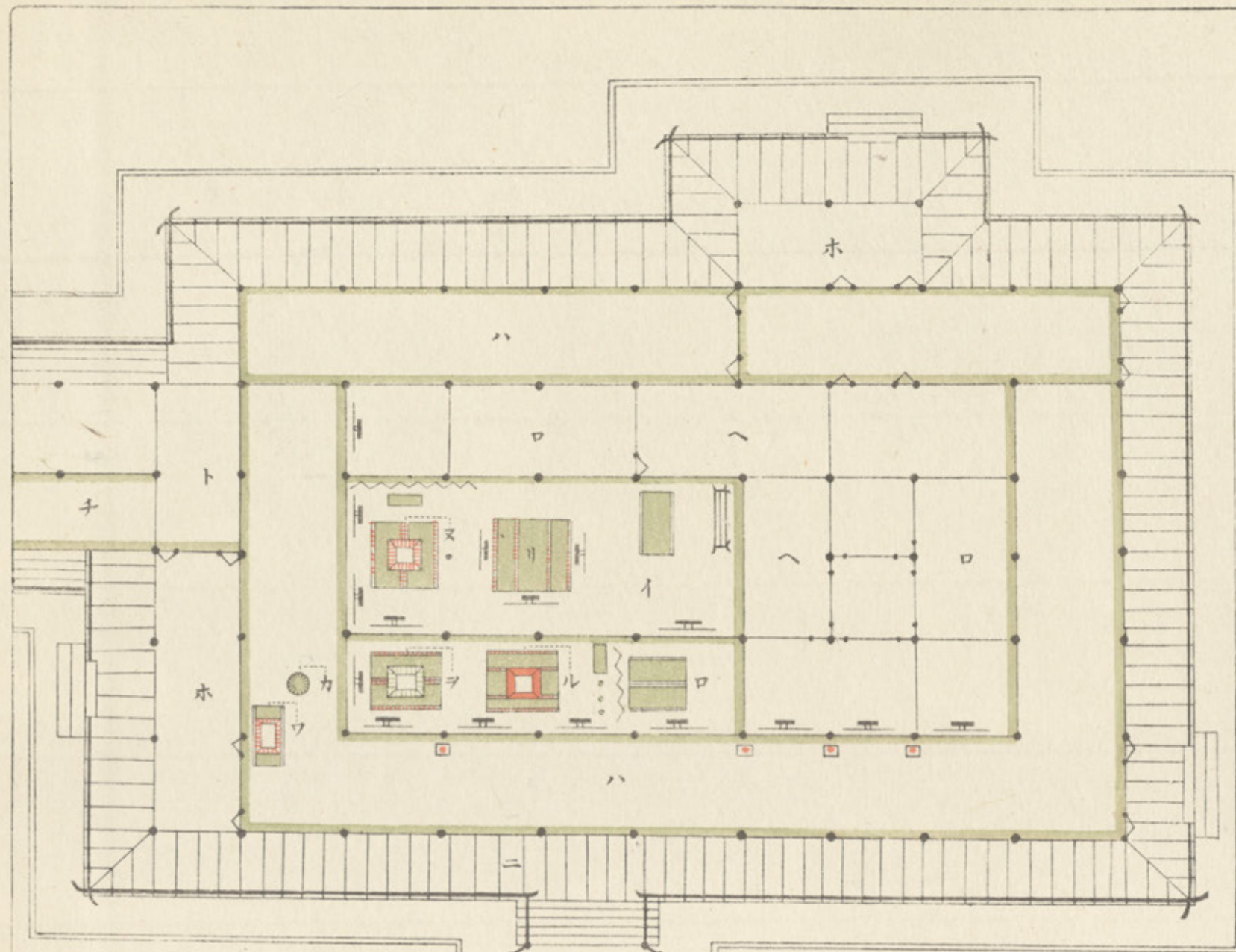








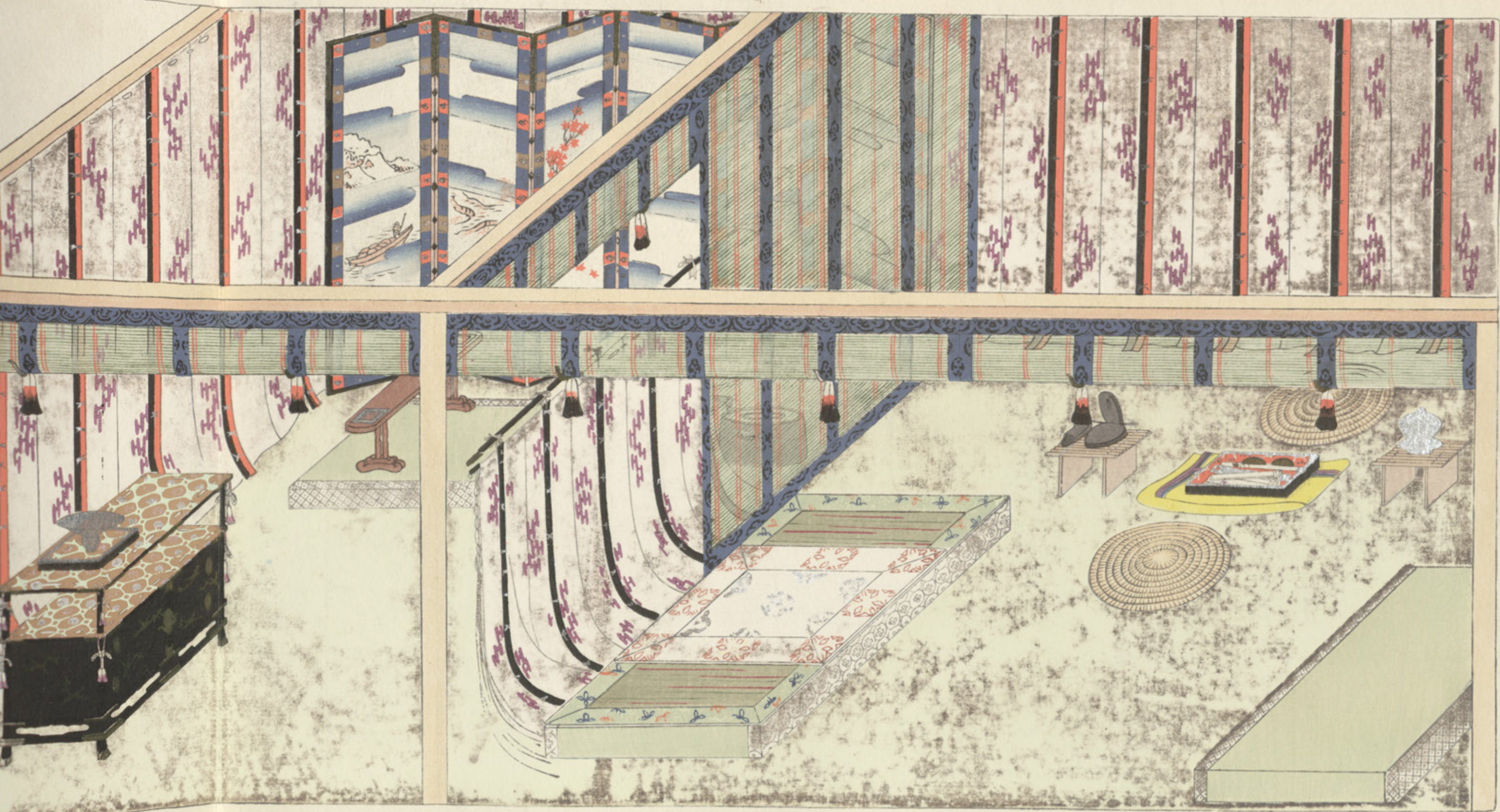
九條家寢殿室禮之圖

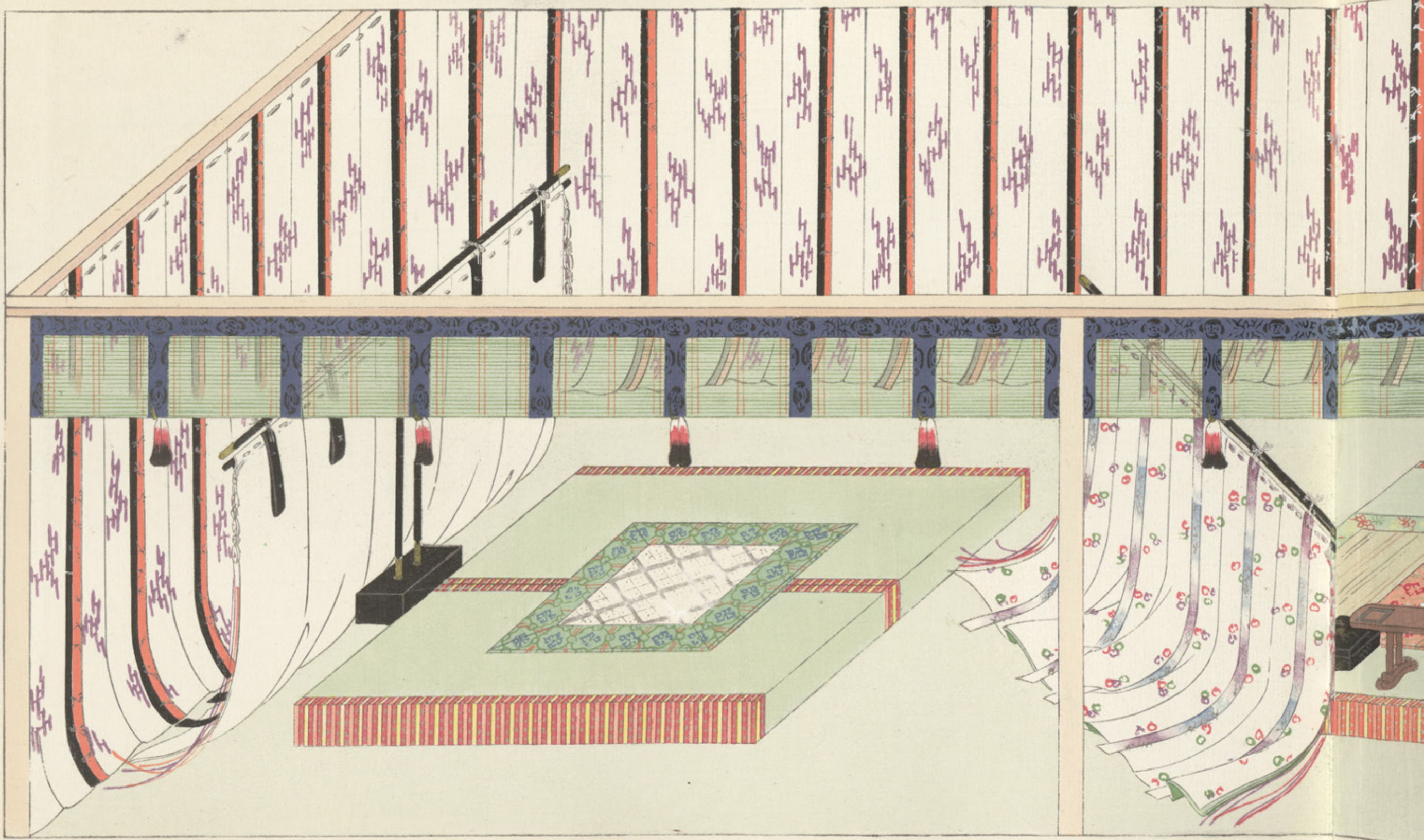


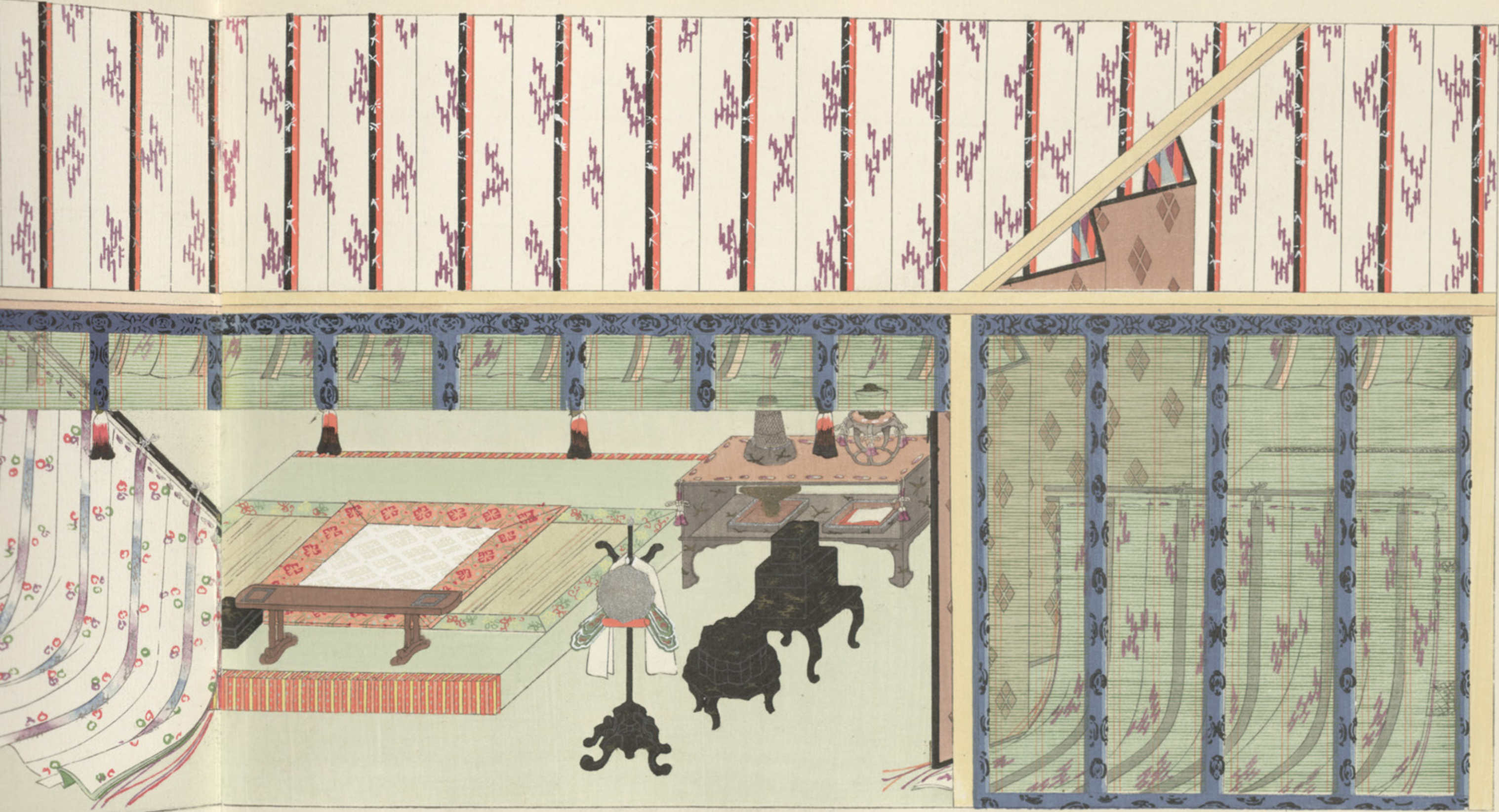
カワヲルヌリチトヘホニハロイ
 勸杯座 御書使座 父太皇御座 姫君御座 御帳臺代 二棟廊 造合 塗籠 出簀子敷 孫廂 母屋

設座之時
 設座之時















神州之

精華

明治癸卯初夏

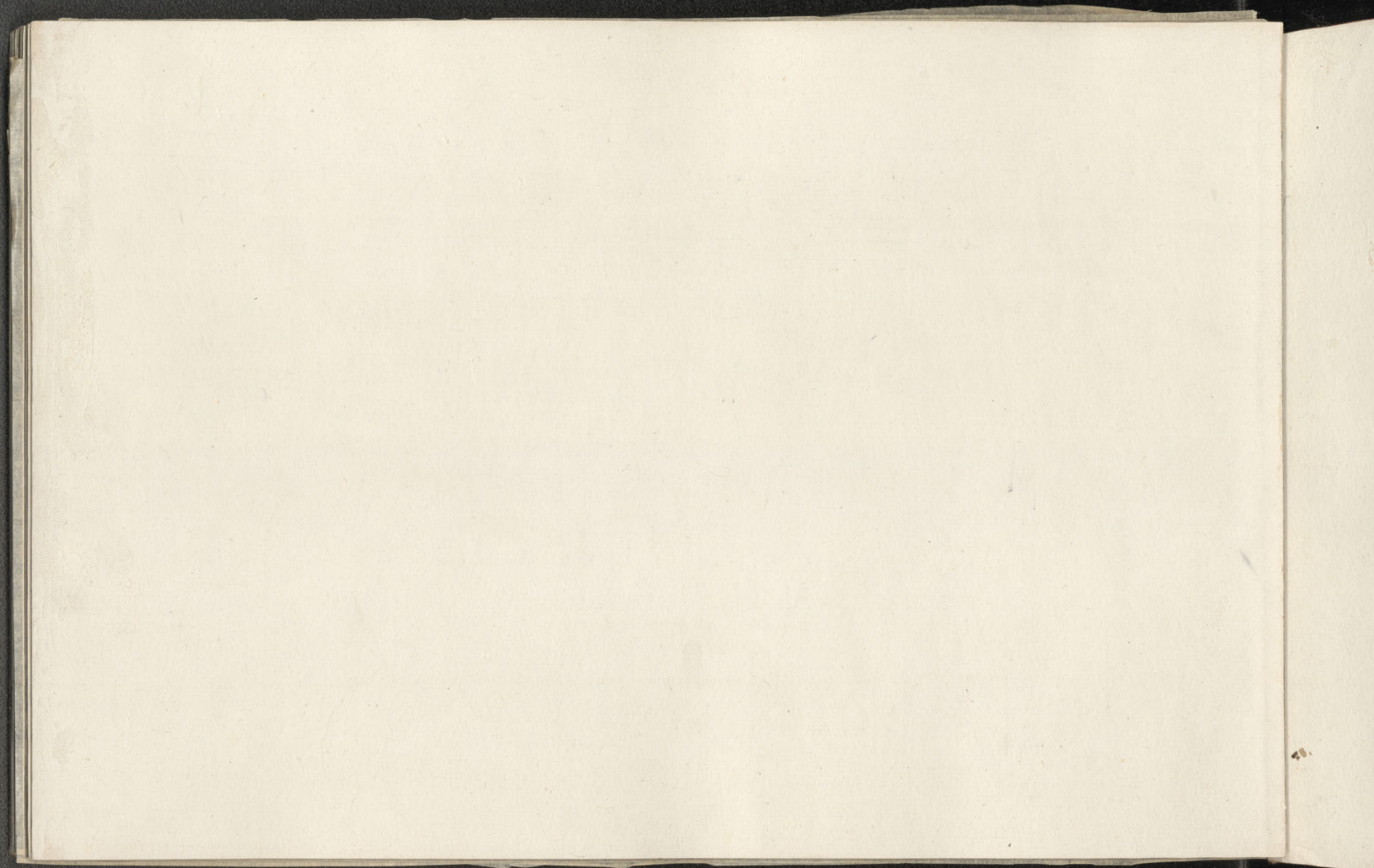
葉鳳題

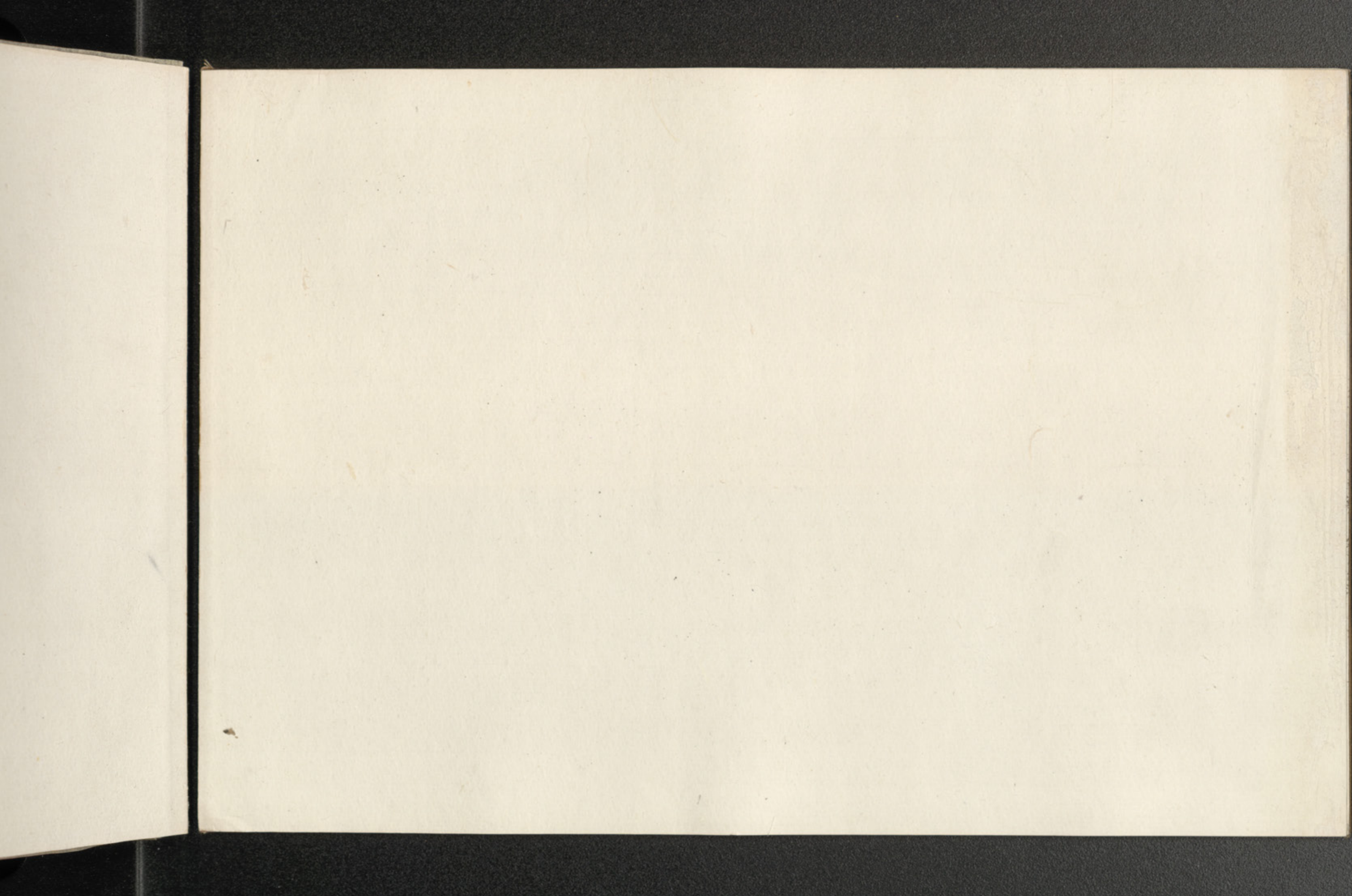


目次

祭	器	飾
寢	殿	飾
元	服	飾
官	服	飾
歌	會	飾
雅	樂	器
蹴	鞠	飾
煎	茶	席
抹	茶	席
能	樂	器
聞	香	飾
饗	應	飾
婚	禮	飾
遊	戲	具
武	具	飾
立	花	飾







舊儀
裝飾

十六式圖譜

